（様式１）【ホームページ掲載用】

研究課題（テーマ）	対面型模擬患者を活用した看護学生のコミュニケーションにおける特徴と学習効果		
研　究　者	所　属　学　科　等	職	氏　　名
代表者	看護学部看護学科	准教授	小林絵里子

研究結果の概要

本研究は、「対面型模擬患者を活用した看護学生のコミュニケーションにおける特徴と学習効果」を明らかにすることを目的として実施している。今年度は、研究の基盤整備として、看護基礎教育におけるコミュニケーション教育および模擬患者活用に関する国内外の文献検討を行い、研究の理論的枠組みの整理を進めた。

文献検討の結果、対面型模擬患者を用いた教育は、学生の対人関係能力や臨床的判断力の向上に寄与することが示唆されている一方で、学生のコミュニケーションの具体的特徴（例：質問の構造、共感表現、非言語的反応など）については、体系的に整理された研究は必ずしも十分ではないことが明らかとなった。また、学習効果の評価についても、主観的評価に依存する傾向があり、客観的指標を用いた検討の必要性が示唆された。

これらの知見を踏まえ、本研究では、対面型模擬患者との相互作用を通じた看護学生のコミュニケーションの特徴を多面的に分析し、学習効果との関連を検討する分析枠組みを構築した。現在、その成果の一部を論文として取りまとめている段階である。

さらに、研究実施に向けた準備として、研究計画の具体化および倫理的配慮に関する検討を行い、所属機関の倫理審査委員会への申請を完了し、条件付き承認で、現在修正中である。これにより、次年度以降のデータ収集に向けた体制が整備された。

今後の展開

今後は、倫理審査の承認に基づき、対面型模擬患者を活用した教育場面におけるデータ収集を本格的に開始する予定である。具体的には、看護学生と対面型模擬患者とのコミュニケーション場面を録音・録画し、その逐語録および行動データを用いて、発話内容、相互作用のパターン、非言語的コミュニケーションの特徴を詳細に分析する。

分析にあたっては、質的分析および量的分析を組み合わせた混合研究法を採用し、学生のコミュニケーションの特徴を構造的に明らかにするとともに、それらが学習効果（自己効力感、臨床判断能力の向上等）にどのように関連するかの検討につなげていく。また、指導者および模擬患者からの評価データも統合し、多角的な評価を試みることも検討していく。

さらに、本研究で得られた知見は、将来的に AI を活用した模擬患者教材の開発へと発展させることを視野に入れている。特に、対面型模擬患者との実際のコミュニケーションデータを基盤とすることで、より現実的かつ教育効果の高い AI 模擬患者の設計に資することが期待される。

最終的には、本研究の成果を通じて、看護基礎教育におけるコミュニケーション教育の質の向上に寄与するとともに、対面型と AI の双方の特性を活かした新たな教育モデルの構築を目指す。